

第5学年 体育科学習指導案

場 所 体育館
児 童 5年1組 33名
指導者 八重樫 泰規

1 単元名 「なりきってワールド」(F 表現運動 ア 表現)

2 単元のねらい

本単元は、学習指導要領の目標「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」を受けた第5学年及び第6学年の内容F表現運動「表現では、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ること。」を重点として設定している。

本単元で扱う表現運動は、競争を伴わず、身近な生活の中から題材を選んで表したい感じをとらえ、動きに変化や起伏をつけて、自分の考えやイメージを思い通りに表現したり、一連の動きを創作して楽しみを味わったりすることができる運動である。その運動特性を踏まえ、仲間と共に動きを考えたり工夫し合ったりすることで、自分と友達の違いやよさを認め合い、運動する喜びを感じることをねらいとする。また、全身を大きく使うことで、表現運動でしか味わうことのできない動きの楽しみを感じることをねらいとする。

3 単元の指導構想

(1) 児童について

児童は、運動に対する意欲が高く、日頃から運動に親しんでいる。朝マラソンや業間休みの様子を見ていると、自分で目標を決めて積極的に運動に取り組んでいる子が多い。体育の学習の様子を見ると、友達と関わり合いながら課題に取り組む姿勢が見られ、グループで学習する経験が豊富であるが、友達や自分の動きを正確にとらえることができないので、どこをどう直したらよいか分からず困惑する児童も見られる。

表現運動については、中学年でリズムダンスを学習しており、音楽に合わせて全身で弾んで踊ったり、友達と自由に関わり合ったりして楽しく踊る経験はしている。しかし、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊る経験はない。そこで、表現運動でしか味わうことのできない楽しさや喜びに触れ、表したい感じを考えて表現したり踊りの特徴をとらえたりして踊ることができるようになることが必要であると考えます。

(2) 単元について

表現運動は、運動を通して、他者と共感したり、交流したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。表現運動には即興的な表現と簡単な作品創作がある。即興的な表現では、動きの誇張や対極の動き、動きの変化などを生かしたメリハリのある「ひと流れの動き」を創り出す。作品創作では、即興的な表現に加え、「はじめ→なか→おわり」の構成で「ひとまとまりの群れの動き」へと発展していく。これらの内容はいずれも個別化、多様化しており、「違いがあるからおもしろい」という面から創造的な学習が進められる特徴がある。そのような活動を通して、固定化しがちな人間関係を崩し、児童同士が互いのよさに気づき、協力して作品を創作する喜びを共有することができる運動でもある。本単元は、身近な生活などから題材を選んで、表したい感じやイメージを創造的に表現していく。また、互いのよさを生かして、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わっていく。児童が表したいイメージをしっかりともち、表現するための方法を友達と関わり合いながら身に付け、その動きを基に表現を創っていくことをねらいとしている。

(3) 指導にあたって

本単元の「表現運動」の学習では、児童が表したいイメージをしっかりともち、表現するための方法を友達と関わり合いながら身に付け、その動きを基に表現を創っていくことができるように単元を構成していく。

事象との出会いの場面では、オリエンテーションの中で目標とする表現運動の映像を見せ、目標とする動きのイメージを持つとともに、動きづくりのエクササイズを行い、踊ることへのほしさを取り除き、踊る雰囲気や意欲を高めていく。単元の導入時に表現運動の特性や身に付けていきたい基礎的基本的な動き方や考え方を学び合うことで学習内容の見通しをもてるようにしていく。

事象とのつながりを深める場面では、授業の初めに主運動につながる類似運動（リズム、体の動き、空間の使い方など）を帯で設定し、基礎的な技能や思考力を楽しく習得できるようにする。その後、動きの誇張や対極の動き、動きの変化などを生かしたメリハリのある「ひと流れの動き」を創り出していく。その際、よりよい動き方や考え方を、児童の動きや言葉の中から児童自身が関わり合って発見したり学び合ったりできる場を設定し、運動のポイントを主体的に見付けながら、動きを身に付けられるようにしていく。作品創作では、即興的な表現に加え、「はじめ→なか→おわり」の構成で「ひとまとまりの群れの動き」へと発展していく。よりよい表現運動のための動きのコツや動きをボードで明示したり、映像等で視覚的に学び合ったりして、友達同士でよりよい動きや考え方を学び合えるようにしていく

単元の終末には、グループで創作した作品の発表会を行い、試しの運動と比較することにより、お互いに学んできたことによって身に付いた成果を自覚できるようにする。また、運動有能感に関する調査を行い、自己の変容を自覚し、次の学習へ意欲をもって挑戦していけるようにする。

4 単元の指導計画

(1) 目標

- ・ 進んで互いの表現のよさを認め合い、助け合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。【運動への関心・意欲・態度】
- ・ 課題の解決の仕方や自分のグループの持ち味を知り、課題に応じた動きを選んだり、構成を工夫したりできるようにする。【運動についての思考・判断】
- ・ いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ることができるようにする。【運動の技能】

(2) 評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
① 自分のめあてをもち、進んで表現運動に取り組もうとしている。	① 表現したいイメージを強調する動きを選んだり、構成を考えたりして、よりよい動きに改善している。	① 題材のイメージに合った多様な動きをし、体全体で動くことができる。
② 友達の動きや活動のよさを見つけ、励まし合ったり認め合ったりしている。	② 自分やグループの持ち味を知り、それらを生かした動きを見付けている。	② 表したい感じを伝えるために、起伏と変化をつけて表現することができる。
③ 進んで約束を守り、場の安全に気を配りながら、練習や発表をしている。		

(3) 指導計画

場面	時間	学習活動	評価規準		
			関心	思考	技能
一次	1	<p>なりきりワールドの学習の仕方を確認しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 試しの運動 3 学習課題の設定 4 学習内容の確認 5 振り返り <p>〈「事象」とのつながり〉 映像から運動のイメージをつかみ、試しの運動を行うことで、動きのズレから本単元で学習していく課題を設定していく。</p>	①		
二次	2	<p>なりきりワールドでいろいろな表現を楽しもう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題の確認 2 走る・止まる 3 氷の彫刻家 4 なりきりワールド <p>〈「事象」とのつながり〉 踊る雰囲気や意欲を高めるために、動きづくりのエクササイズを行う。</p>	②		
	3	<ol style="list-style-type: none"> 4 なりきりワールド <p>〈「友達」とのつながり〉 それぞれが即興で表現したことをグループで見合い、よい表現を交流する場を設定する。</p>		①	①
	4	<ol style="list-style-type: none"> (1)新聞紙 (2)ポップコーン (3)納豆 5 振り返り 			②
三次	5	<p>空間の使い方を考えて表現しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題の確認 2 走る・止まる 3 広がる・集まる <p>〈「事象」とのつながり〉 苦手な表現や出来なかった表現を交流する場を設定し、次時の課題設定につなげる。</p>	②		①
	6	<ol style="list-style-type: none"> 3 新聞紙に変身 4 なりきりワールド 	③		②
	7 本時	<ol style="list-style-type: none"> (1)スポーツの攻防 (2)洗濯物 (3)火山 5 振り返り <p>〈「友達」とのつながり〉 グループで「はじめ・なか・おわり」の構成を考えるため、よりよい表現運動の動きのコツや動きを交流する場を設定する。</p>		①	
四次	8	<p>なりきりワールド発表会をしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題の確認 2 発表の準備 	②		
	9	<ol style="list-style-type: none"> 3 なりきりワールド発表会 4 振り返り <p>〈「未来」とのつながり〉 単元で身に付いた表現運動を相互評価し、お互いに価値付けることにより、学習の成果を自覚できるようにする。</p>			②

5 本時の指導計画

(1) 目標

表したいイメージを強調したり，構成を工夫したりして，ひとまとまりの表現を考える。

【運動についての思考・判断】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
表したい火山のイメージを強調したり，空間や「はじめ→なか→おわり」を考えて構成を工夫したりして，ひとまとまりの表現を考えている 【運動についての思考・判断】	イメージを強調したり，構成を工夫したりできるように，ひとまとまりの表現の例を示す。

(3) 展開

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点・支援	備考
導入 10分	1 学習内容の確認 2 動きづくりのエクササイズ (1)走る・止まる (2)広がる・集まる (3)新聞紙に変身 3 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を想起し，本時の学習内容を確認する。 主運動につながる動きを意図的に取り入れ，踊る雰囲気や意欲を高めるとともに起伏と変化をつけて表現できるように声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示資料 音楽 CD
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈「事象」とのつながり〉 前時までの学習を振り返り空間の使い方に課題があったことを想起する。 ↓ 前時までの学習から苦手な表現や出来なかった表現を確認し，本時の動きのイメージをもつことができるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>火山になりきって空間を考えながら表現しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時のなりきりワールドでの振り返りから，空間を意識して動くときと表したいイメージに広がりができることを確認し，本時の学習課題を設定する。 	
展開	4 なりきりワールド 「火山になろう」 (1)「はじめ→なか→おわり」の流れを意識して表現する。 (2)ペアグループで動きを見せ合う。 (3)動きを修正して練習する。	<ul style="list-style-type: none"> 提示資料を活用し，一人一人が火山のイメージがもてるようにする。 前時までの学習を振り返り，動きやリズム，空間などの工夫をしながら表現できるようにする。 ストーリーカードで「はじめ→なか→おわり」の構成を提示し，ひとまとまりの群の動きのイメージをつかめるようにする。 作品の流れを話し合うときには，動作を交えながら話し合うようにする。 	

展 開		<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動している児童や火山になりきって動いている児童，よいアドバイスをしている児童を称賛し，その内容やアドバイスを紹介する。 ・「はじめ→なか→おわり」をつなげて表現できているグループを見ながら，自分のグループに生かせるように助言する。 ・ペアグループの良い表現を取り入れながら動きの修正を行っていくように促す。 	
	30分	<p>〈「友達」とのつながり〉 よりよい表現運動のための動きのコツや動きを交流する場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>グループで「はじめ→なか→おわり」の構成を考え，動きながらよりよい動きに修正できるようにする。</p>	<p>◇表したいイメージを強調したり，構成を工夫したりして，ひとまとまりの表現を考えている。</p> <p style="text-align: center;">【運動についての思考・判断】</p>
ま と め	5分	<p>5 ミニ発表会を行い，本時の学習を振り返り，次時の学習についての見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの良い動きや工夫したところを確認し合い，称賛することで次時への意欲付けとする。
		<p>〈「未来」とのつながり〉 本時の学習を振り返るためにミニ発表会を設定し，学習前の動きと比較し学習後の成果を確認する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>本時に身に付いた表現運動を相互評価し，お互いに価値付けることにより，学習の成果を自覚し，次時の発表会につなげられるようにする。</p>	